



桃五だより



No.619

(1月号)

2023.1.10

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

誉 め る

校長 川田 忠

新年 あけましておめでとうございます

今年、卯年。ウサギにあやかって、本校の教育活動も一段の飛躍を果たしていきたいと思えます。昨年同様、保護者の皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

12月の土曜授業日の話です。この日の3校時、2年生の各教室に支援本部の皆さんが2・3名ずつ付いていただき、かけ算九九の習熟学習が行われました。子供たちの九九の暗唱を聞いたり、九九プリントの丸つけを行ってくれたりしました。

いつもなら、担任一人で30人からの子供たちを相手にするところです。それが、何人もの大人が教室にいることで、子供たちの習熟は格段に進みます。子供たちは、九九の暗唱に繰り返し挑み、プリントを次から次と仕上げていきました。

支援本部の皆さんは、そんな子供たちの頑張りを認めていきます。「とても上手に言えたね」「全部できて、すごい！」本校の卒業生である大学生の方も含めて、皆さんが子供たちに励ましや賞賛の言葉をかけていきました。子供たちにとって支援本部の皆さんの一言が、さらに先に進もうというエネルギーになっているのは明らかでした。

12月の5年生の家庭科学習は、調理実習でした。今回挑戦したのは「味噌汁」。子供たちは協力して味噌汁づくりを行いました。

出来上がった味噌汁は、校長室にも届けられました。調理実習があると、高学年の子供たちはおすそ分けをしてくれます。校長室に届けに来た子供たちは言いました。「ちょっと薄くなっちゃったんだ」初めての味噌汁づくり、今回は思っていたような味にならなかった

と伝えてきます。

「どれどれ」と言いながら一口。自分たちが作った味噌汁に対して、校長がどんな一言を発するかを待つ表情は真剣です。「うーん、うまい！これは体にいいね」確かに薄味の味噌汁でしたが、子供たちが挑戦して作った味噌汁、おいしくないわけがありません。届けに来た子供たちにお礼を言うとともに、学級あてに感想を書いたお手紙を渡しました。

「叱るより誉めよ」子育てをする中で、よく聞く言葉です。子供たちと生活をしていけば、叱るネタはいくらでもあり、叱ることがなくなることはないでしょう。でも、叱ることよりも、誉めることによって人は育つということを、私たち大人は経験として理解しています。自身の子供時代がどうであったのかを紐解けば、きっと誉められてうれしかった経験がいくつも思い出されることでしょう。

誉めることは難しい。心して、誉める出来事に気づき、誉める場面を見つけていかないと、時は流れていってしまいます。誉めたり、認めたりするタイミングがずれてしまうと、せっかく誉めたとしても効果は半減してしまうことにもなります。

だからこそ、子供たちをうんと誉める機会を増やしたい。認めてあげる場を創りたい。難しいことにきちんと正対する教育や子育てをしていきたいと思えます。どんなに時代が変化し、AI やロボットが活用される世の中になっても、人が人を育てる営みはなくなる以上、誉められた経験をたくさん積んで育てていく桃五の子供たちにしたい。今年も、学校・家庭・地域が力を合わせて、みんなで子供たちを育てる年にしていきましょう。

1月の生活指導目標

寒さに負けない体をつくろう

3学期に入り、寒さが一段と厳しくなる季節になりました。学校では、感染予防のために教室や廊下の窓を開けておく等、換気をよくしています。その影響で、例年の冬よりも室温が低くなっています。寒さを感じた時にもう1枚重ね着できるように、セーターやトレーナーなどを用意して、登校をさせてください。寒さに負けない健康な体をつくるために、十分な睡眠とバランスのよい食事、元気に外遊びなどを学校や家庭でも心がけましょう。